

## 世界臨床検査通信シリーズ-33 臨床検査に関する団体の活動

# 国際臨床化学連合(International Federation of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine; IFCC)

日本臨床化学会 代表理事  
IFCC National Representative  
浜松医科大学医学部臨床検査医学 教授 前川真人

1952年にロンドンのキング教授が、当時新興の臨床化学会は International Union of Pure and Applied Chemistry (IUPAC) のもとで国際組織を設立すべしとして、パリの生化学の国際会議で International Association of Clinical Biochemists として出発、翌 1953年にストックホルムで International Federation of Clinical Chemistry への改称が決議され、1955年のブリュッセルの会議で正式に承認された。IFCCの当初の目的は生化学の知識と興味を臨床的観点で進展／振興させることであった。その後、守備範囲が臨床化学のみならず臨床検査全般に広がったため、1999年から International Federation of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine と改称された。

IFCCは、各国から臨床化学関連学会の代表がフルメンバーとなり、現在(2018年11月)、92のフルメンバー、15の提携メンバー、42の企業メンバーから構成されている。また、6つに分けられた地域ごとの活動も行っており、日本は APFCB (Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine) に属している。日本は、日本臨床化学会 (JSCC; 当時は医化学シンポジウム) が1962年に IFCC に加盟しており、JSCC 会長(代表理事) が日本代表として参画している。1991年に第5回 APCCB を神戸、2002年には第18回 ICCCL を京都で開催した。

IFCC の役割として大きく次の3つが謳われている。(1) 他の国際機関と協働してグローバルスタンダードを設定する；(2) 科学的、教育的な尽力でメンバーを支援する；(3) 学術集会、カンファレンスなどを提供し、学術所見やベストプラクティスを発表する機会とする。

IFCC では常置委員会の他に、専門委員会、ワーキンググループ、タスクフォースなどが活動しており、日本からも多くのメンバーが参画している。共通したビジョンは、世界のヘルスケアのために臨床検査を磨いていこうというものである。現在は臨床検査の標準化と統合化、教育に特に注力しており、これからの臨床検査をさらに発展した学問にしていこうとしている。

国際会議 (IFCC WorldLab Congress) は3年毎に世界各地で開催され、次回は2020年5月にソウルで開催される。また、3年毎に総会 (General Conference) が開催され、会長や企業会員代表からの戦略的な話、庶務会計報告、および委員会活動報告などがある。総会前日には各種委員会が会議も行う。直近では2018年11月にブダペストで開催され、71カ国から266名(+60名のゲスト)が参加した。臨床検査のハーモナイゼーション、教育的なコンテンツの活動などが紹介された他、特記すべきことは新しい委員会 (Emerging Technologies Division; ETD) が結成されたことである。ETD は3つの委員会からなり、小児の臨床検査における微量サンプリング技術、モバイルヘルスとバイオエンジニアリング、オミックストランスレーションを担当する。技術的な課題のみならず、全検査過程の統合化を意識した内容で、IFCCの基本的な考え方が踏襲されている。これからも国際的な臨床検査、臨床化学の学術組織としてグローバルな活動が期待される。